



陳情 27 第 1 号

地球社会建設決議に関する陳情書

中国が巨大軍事基地の建設を始めた、という報道がありました。戦争へ繋がり、世界を破壊する危険のある行動です。止めなければなりません。しかし、国際社会では「やめろ」と要請出来る根拠はなく、要請出来る立場の人間もいません。**中国権力の暴走を止められるのは、唯一、「地球社会建設決議」です。この決議で、声を上げる根拠、声を上げられる立場、地球市民の立場を獲得出来るからです。この意味をご理解出来ますか。この決議は、人類史上、「独立宣言」に匹敵する重要な決議です。**

世界的前提（国際社会から地球社会へ）が変われば、戦争のない世界が実現します。その前提を変える為の決議を要請します。この陳情は、世界の戦争放棄を実現します。この陳情は、唯一、人類が地球で生存し続けられる生き方を提示しています。貴議会に所属している市民達も、地球共同体社会の一員達です。市民達が生きる為、人生を守る為、この決議をしなければなりません。人類生存の前提、核廃絶の為に平和市長会議に参加している貴議会の責務です。

平成 27 年 1 月 26 日

つくば市 議会
議長 塩田 尚 殿

陳情者

〒 [Redacted]

地球社会建設決議草案（戦争のない世界実現への基本原則）

前文

すべての人間が地球で共同生活をしているのが世界である。この社会は、構成する一人一人の人生を守る為にある。地球社会建設決議は、この目的を達成する為に決議されるものである。現時点の世界は、巨大な破壊力を保有し、全世界を廃墟へと向かわせている。この巨大な破壊力は、年毎に、質・量・技術を増大させ、全世界の廃墟へと導いている。破壊力を巨大化させ、廃墟へと導いているのは、国際社会という仕組みであり、この仕組みが「国家の軍備を容認」している為である。国家の思いを実現する為に暴力の行為を容認している仕組みである。国家の主権という理念がさせ、世界中の人間がその理念を容認している為である。全ての人間が地球で共同生活をしている事実を失念させ、国家の生存権こそ、絶対優位の価値にしてしまう根源である。国家権力はこの理念を、権力維持に利用し、戦争・抑圧・搾取・・・で破壊・殺戮・非道・悲惨・・・の犯罪行為を繰り返し、全世界を廃墟にすべく、軍拡・核拡散の衝動に駆られ、人類を抹殺する寸前に至らしめているのである。この陳情は、世界中の人々に、全ての人間が地球で共同生活をしている事実を認識させ、国際社会から地球社会へ導き、人類の自滅行動から脱却させ、未来への生き方を明示するものである。世界の片隅の自治体の決議であっても、決議の言葉の正当性は、世界に響き渡るものである。この決議は「人類が永遠に戦争を放棄する」事を意味し、日本

の憲法九条の世界化である。安全で豊かな未来を建設する為に、全ての人間に、その努力を義務付け、要請するものである。この目的が明確になれば、その為の社会技術の開発に多大な努力が要請され、その結果、世界は、社会は、より高度な領域へと方向付けられるであろう。世界の片隅の自治体に所属する我々も、この地球共同生活体社会の一員である。我々は、この世界に生きる一員としての立場から、そして、この世界での生存権を有する者として、この共同体社会に、全ての人間の一人一人の人生の尊厳を守る責任を課し、その責任を果たす為の進化を要請するものである。

我々は、この上ない誇りを持って、以下を決議するものである。

- 1) 全ての人間が生活している地球共同体社会。この共同体社会・地球社会をより安全に、より豊かにする事が、全ての人間の豊かな生存の唯一の道である。この地球社会の建設こそ、未来への人間の為すべき唯一の道・方向性である。地球社会建設の目的は、すべての人間の人生を守る事にある。全ての人間に最低限の文化的生活を営む権利がある事を確認するものである。地球社会をより安全に、より豊かにしようとする思い、努力、行動こそ、地球に生活する市民としての人間の義務・責任である、とする決議。
- 2) 「国家の軍備は当然」という認識は「国益を守る為には、人間を殺してもいい」とする考えが前提で為されている。この認識・考えは、人類の歴史の過程での錯誤である。この考えは、多数を、それこそ、すべての人間を虐殺する準備を、国家に正々堂々と行なわせている。国家の軍備行為、戦争の準備行為は、人類を消滅しかねない極めて危険な行為であり、この行為は違法行為であり、重大な犯罪行為である。地球社会における国家は、一つの行政単位であるにすぎない。「人類の戦争放棄」を高らかに謳い上げ、「国家に戦争を発動する権利はない」とする決議。
- 3) 地球共同体社会。すべての人間を守る唯一の社会。この社会を損ねるのではないか、という危惧が生じたなら、たった一人でも、その危惧を表明しなければならない。この表明は地球を、社会を、すべての人間を守る尊い行為である。いかなる国家、いかなる宗教、いかなる価値観であろうと、人間の尊厳を傷つける危惧があれば、告発しなければならない。この行為は地球市民の義務・責任であるとともに、基本的権利である。とする決議。
- 4) 人道・人権は世界法である、とする決議。従って、戦争行為は重大なる犯罪行為である。命令発信者は、もとより、命令受諾行為者も、その責めを免れる事は出来ない。
- 5) 地球社会全体を守る組織が創造されれば、地球社会の一部である国家防衛も万全となる。地球・社会・全ての人間を守る「守り人」の組織を創造しなければならない。地球社会防衛隊を創設しよう、とする決議。
- 6) 空・陸・海・地下の空間、石油・鉱物等の資源は、地球に現存するすべての市民の共有、とする決議。地球に生きる市民は、共有資産の使用に対価が伴い、この対価は、地球社会防衛隊等、地球社会運営の基礎財源である事を認識する、という決議。
- 7) 生存の基本的権利である人間の尊厳を守るのは民主社会主義社会である、とする決議。

- 8) 社会の主権者は市民であり、その確立の為に民主主義技術を高めよう、とする決議。
- 9) 地球社会の柱は、最高意思決定機関の創設である、とする決議。
- 10) より安全で、より豊かな地球社会建設には更なる社会技術の向上が必要である、とする決議。
- 11) 産業革命以来、200年余、産業社会化が拡大し、実に多くの人々に福利をもたらした。これからも、地球規模の産業社会化を目指し、全ての人間にその福利が行き渡るよう、全ての人間が努力せねばならない、とする決議。
- 12) 全ての人間を守り、全ての人間の利益となる考えは普遍的価値観である。この価値観を蹂躪する言葉、行為は、いかなる人間、いかなる集団の指導者であろうと、人類への敵対行為者である、とする決議。

中国権力が、尖閣諸島の近い所に、巨大な軍事基地を創り始めました。中国の主張に従え、従わなければ武力で従わせるぞ、という強い意志を明確にした。という事です。この意志は、確実に戦争を発生させ、世界の滅亡への道です。皆、その事態を感じている筈です。国際社会では、この中国権力の暴走を停める事は不可能です。この巨大軍事基地建設の開始という報道があっても、世界のどこからも危惧の声が出ません。国際社会には、声を上げる根拠も、声を上げられる立場の人間もいないからです。

中国権力の暴走を止められるのは、唯一、「地球社会建設決議」です。この決議で、声を上げる根拠、声を上げられる立場、地球市民の立場を獲得出来るからです。この意味をご理解出来ますか。

1) 全ての人間が地球で共同生活をしている。2) 全ての人間は、この共同体社会・地球社会の安全と繁栄に責任がある。3) 地球社会は、全ての人間の人生を守る責務を有す。4) 人道人権は世界の基本法である。5) 空・陸・海・資源・先人の遺産などは、現存している全ての人間の共有である。6) 地球環境の至上の尊さを汚染する事は、絶対に許されない。が、地球社会建設決議の骨子です。この「公理」は、「自然の摂理」と同様、冒す事は不可能です。この「公理」に照らし、中国権力の行動は「人類への敵対行為」として断罪されます。地球社会建設決議は、国家の軍備を不当な行為とし、戦争の起りえない世界へ導き、核廃絶を実現する「土台」です。私は、選挙で、日本全国の方々に訴えます。「地球社会建設決議の意味を理解できない人を支持してはいけません」と。更に世界中の方々に伝えます。「共に、地球社会を建設しましょう」と。この決議は、人類史において、「独立宣言」に匹敵するものです。世界に対するヒロシマの責任を果たす唯一の道です。この責任を果たす時、世界の責任都市として、ヒロシマの発展は必然です。

貴議会で、地球社会建設決議を採択した時、すぐに、地元のメディアに、下記の文書「中国政府に要請する」を掲載させて下さい。それ以上の行動は必要ありません。海外も含め、他の自治体議会も、貴議会に続くでしょう。

「中国政府に要請する。貴政府は、尖閣諸島の近辺で、軍事基地の建設を開始した、という報道があった。貴政府のこの行動は、戦争への道であり、世界の破壊、滅亡へ繋がる極

めて危険な行動である、と憂慮している。すぐに停止するよう、要請するものである。貴政府が、沖縄の軍事基地を脅威としている事は理解する。貴政府が、沖縄の軍事基地の撤廃を要請する事は、正当である、と考えている事をお伝えする。

当議会は、2015年〇月〇〇日、別紙、地球社会建設を決議した。我々は、地球共同体社会の一員、つまり地球市民として、戦争の準備・核兵器保有など、世界を危険に陥れるであろう行為に対し、看過する事は絶対に出来ない立場にある。貴政府に対する要請は、人間としての基本的権利、正当防衛行為の発動である。当議会は、当地域の地球市民〇〇万人を代表し、貴政府の軍事基地建設の即時停止を要請するものである。」

世界中から、この要請の声が湧き起これば、事態がどのように展開するでしょうか。中国政府が、「これらの声は内政干渉だ」と強弁しようが、通用しません。彼らも地球で生活しているのですから。また、日本政府に苦情を持ち込んでも、日本政府は何も出来ません。そして、中国政府も日本政府も含め、世界中の国々が、すぐに理解するでしょう。地球社会建設こそ、究極の安全保障である事を。

人間の足場と立場という事をご説明します。

足場は、人間の生きている土台を意味し、立場は、生活の為の土台を意味します。人間は、出生の時点で、属性が沁みついています。両親・親類・民族・地域・文化・肌・言語など、自分で選択できない条件が備わっています。この属性から脱却する事は不可能です。ハンナ・アレントは、これを「生の所与である属性」と表現しています。アレントはユダヤ人という属性を背負って出生し、その属性故に、その人生が振り回されました。ユダヤ人を、貨車というベルトコンベヤーでガス室に送り、600万人を殺した、という事実は、歴史の真実です。この事実は、ナチスという狂気の「人間存在の否定行為」であり、受難対象のユダヤ人の「存在の足場の喪失」です。戦争でも足場の喪失はありません。

ユダヤが民族ごと狂わされたのは、歴史の事実です。いまだに、中東の紛争、テロの発生など、後遺症が継続しています。失業。資本の一方的利潤追求が、多大な人間に生活の足場を喪失させ、苦しめています。ナチスを発生させたのも、この資本行動でした。人間が困窮し、苦痛の中に放り込まれた時、人間は破壊へと、そのエネルギーを爆発させます。

人間が生存への土台、その足場と立場を確立出来れば、世界は安定します。

私は、15年ほど前、「地球市民の立場」を発見しました。全ての人間は生存権を持っている、と、当たり前な考え方を確信した。という意味です。私は「地球市民という立場」に絶対的な信頼を持っているからこそ、ヒロシマ市長選に立候補し、「核廃絶を実現します」と叫ぶ事が出来るのです。「地球市民の立場」はエゴを主張できる立場ではありません。「全ての人間の人生が守られる為には、どうあるべきか」のテーマが宿るからです。自己利益が、世界を破壊する事を自覚出来るからです。地球市民の立場は、生存の為の万全の土台であり、足場が崩れる事はあり得ません。地球社会建設決議で、その立場を獲得出来るのです。この地球市民という立場が、市民を強力にする事実を、世界に伝える事で、戦争のない世界へ方向づけが出来る、と確信し、その為、ヒロシマから発信しなければならないのです。